

2010年(平成22年)12月6日 月曜日

国際医療ボランティアAMDA(菅波茂代表、本部・岡山市北区伊福町)が、世界各地で起きた戦争や災害で亡くなった人々の冥福を現地で祈る「医療と魂の

プログラム」(ASMP)を開始して10年あまり。慰霊祭の開催がきっかけでAMDAの診療所が現地に開設されるなど、活動は広がりをみせている。(三島翔)

戦争、災害 慰霊続け10年

モンゴルの首都ウランバートルの寺院で8月下旬、日本軍とソ連軍・モンゴル軍が衝突したノモンハン事件(1939年)の戦没者を弔う式典が営まれた。現地の仏教徒や日本の神職など宗教の枠を超えた約50人が一緒に経を唱えた。参列した難波妙AMDA参事は「現地の方に感謝の言葉をいただき、親交がより深まった」と話す。ASMPは、菅波代表がAMDAの活動などを通じ、アジアには第二次世界大戦で家族らを失うなど今も心に傷を負っている人が多いことを気に病み思案。フィリピン人でAMDA名誉顧問のプリミティボ・D・チュア医師が慰霊祭の開催を提案し、2000年11月にフィリピンで初めて行った。

AMDAメンバーと戦争のほか、05年には津波などで22万人以上の犠牲が出たスマトラ沖地震の被災地で慰霊祭を実施。これまでに慰霊や平

AMDA
医療と魂のプログラム



モンゴル・ウランバートルで開かれた平和祈願祭
8月下旬、AMDA提供